



県民の森 植物紹介 ③⑧ ートチノキ (ムクロジ科)ー

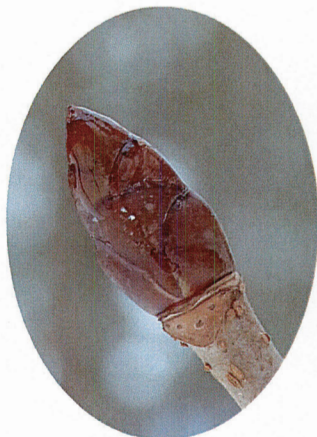


教科書にも出てくる『モチモチの木』のモデルの木です。春から初夏に円錐形の大きな花序を上向きに咲かせます。蜜はたいへん美味しくて蜜源植物として有名です。トチノキは受粉が終わった花は中の色が黄色から赤に変わります。これは主に花粉を運んでくれるマルハナバチだけに見分けられる合図で、ほかの昆虫は赤い花にも訪花しますが、マルハナバチは黄色を目指してやってきます。

秋に出来る実は、クリのように大きく美味しそうな実ですが、アクが強くて、そのままでは食べられません。トチの実のアク抜きは、非常に時間と手間がかかり別格に難しいとされていますが、縄文時代から食用にされており、「栃餅」はマタギの貴重な冬山の携帯食でもありました。いまでも一部の地方でお餅や煎餅として利用されています。

冬芽は親指くらいで、ベトベトした樹脂をくっつけて寒さや虫から守っています。てかてか光っていてとても綺麗です。中には葉や花芽などがたくさん詰まっていて、春の芽吹きの様子は、まるでエイリアンが出てくるようです。

園内ではあちこちで見られますが、記念の森には並木があり、たくさんのトチノキが植樹されています。



冬芽 2020年2月25日



芽吹き 2020年5月9日



花が咲く様子 2020年5月29日



花：左が受粉前。右が受粉後 2020年5月29日



若い実 2019年8月17日



トチの実(上:皮/下:実)
森林ふれあい学習館の工作材料としても使われています。